

砂川市少年の主張大会 主張全文紹介②



「いじめをなくすために」

砂川学園 9年 矢野 凜々香

私は、いじめはどんな理由があっても決して許されないものだと思います。いじめとは言葉や態度、行動によって相手を傷つけ、苦しめることです。悪口を言う、無視をする、からかう、仲間外れにするなど、本人はいじめのつもりがなくても、相手がつらいと感じた時点でそれはいじめになります。いじめを受けた人は心に深い傷ができ、学校に行くことが怖くなったり、自分に自信を持てなくなったりすることがあります。その影響は大人になってからも残っていることがあります。だから、いじめはとても重い問題だと考えることができます。

いじめが起こる原因の一つは、相手の気持ちを想像できていないことだと思います。自分と違う見た目や性格、考え方を持つ人に対して、「おかしい」や「変だ」と決めつけてしまうことで、相手を傷つける行動につながります。また、周りの雰囲気流されてしまい、本当はいけないと分かっているのに、笑ってごまかしたり、何も言わずに見て見ぬふりをしたりすることもあります。しかし、その態度がいじめを続けさせてしまうことも少なくありません。

だからこそ、いじめをなくすために私たちが、まずすべきことは、相手の立場に立って考えることだと思います。もし自分が同じ言葉を言われたらどう感じるか、どう思うかを考えるだけで、自然と行動が変わるはずです。人はそれぞれ違って当たり前だと思います。得意なことや苦手なこと、考え方や感じ方が違うからこそ、人との関わりの中で学べるがあります。その違いを理由に誰かを傷つけるのではなく、大切にすることを必要だと思います。

また、いじめを見かけたときに行動することも大切です。直接注意するのが難しい時でも、先生や信頼できる大人に相談することは、いじめを止めるために大切な一歩です。黙っていることは、いじめを認めてしまうことにつながる場合があります。小さな行動でも、声を上げる人が増えれば、いじめを許さない雰囲気が学校全体に広がっていくと思います。

さらに、日ごろから思いやりのある行動を心がけることも、いじめを防ぐ力になると思います。あいさつをする、相手の話をきちんと聞く、困っている人に声をかけるなど、当たり前のことを大切にするだけで、人は安心できると思います。誰かを孤独にさせない環境を作ることが、いじめを生まない学校につながっていくと思います。

いじめをなくすためには、特別な人だけが頑張るのではなく、私たち一人ひとりが意識することを変えることが大切だと思います。相手の気持ちを考えて、間違っていること、違うことと向き合って、できることを行動に移すことが大切だと感じました。私はいじめのない学校を作るために、相手の気持ちを考えたり、相手の立場になって行動するなどといった、自分にできることをこれからももっと意識して行動、発言していきたいなと思いました。